様式第４のハ　（第４条、第５条関係）

屋外タンク貯蔵所構造設備明細書

<table>
<tr><td colspan="2">事業の概要</td><td colspan="4">1</td></tr>
<tr><td colspan="2">貯蔵する危険物の概要 2</td><td>引火点</td><td>℃</td><td>貯蔵温度</td><td>℃</td></tr>
<tr><td colspan="2">基礎、据付方法の概要</td><td colspan="4">3</td></tr>
<tr><td rowspan="9">タンクの構造・設備</td><td>形状</td><td colspan="2">4</td><td colspan="2">常圧・加圧（ 5 kPa）</td></tr>
<tr><td>寸法</td><td colspan="2">6</td><td>容量</td><td>7</td></tr>
<tr><td>材質、板厚</td><td colspan="4">8</td></tr>
<tr><td rowspan="2">通気管 9</td><td>種別</td><td>数</td><td colspan="2">内径又は作動圧</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">mm
kPa</td></tr>
<tr><td rowspan="2">安全装置 10</td><td>種別</td><td>数</td><td colspan="2">作動圧</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="2">kPa</td></tr>
<tr><td>液量表示装置</td><td colspan="2">11</td><td>引火防止装置</td><td>12 有・無</td></tr>
<tr><td>不活性気体の封入設備</td><td colspan="2">13</td><td>タンクの保温材の概要</td><td>14</td></tr>
<tr><td colspan="2">注入口の位置</td><td colspan="2">15</td><td>注入口付近の接地電極</td><td>16 有・無</td></tr>
<tr><td rowspan="2">防油堤</td><td colspan="2">構造</td><td>容量</td><td colspan="2">排水設備</td></tr>
<tr><td colspan="2">17</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">ポンプ設備の概要</td><td colspan="4">18</td></tr>
<tr><td colspan="2">避雷設備</td><td colspan="4">19</td></tr>
<tr><td colspan="2">配管</td><td colspan="4">20</td></tr>
<tr><td colspan="2">消火設備</td><td colspan="2">21</td><td colspan="2">タンクの加熱設備 22</td></tr>
<tr><td colspan="2">工事請負者
住所　氏名</td><td colspan="4">23
電話</td></tr>
</table>

備考　この用紙の大きさは、日本工業規格Ａ４とすること。

［屋外タンク貯蔵所構造設備明細書記入要領］

１　「事業の概要」の欄は、屋外タンク貯蔵所を使用して行う事業の内容について具体的に記入すること。

２　「貯蔵する危険物の概要」の欄中、「引火点」の欄は、中仕切りタンクの場合、最も低い引火点を記入し、「貯蔵温度」欄は、加熱設備等常温以外の状態で貯蔵する場合に記入すること。

３　「基礎、据付方法の概要」の欄は、例えば「〇ｍＰＣ杭を〇〇本を打設し、その上に厚さ〇.〇mの鉄筋コンクリート基礎を設ける。タンク下部は、アスファルトモルタルを敷設する。」等と記入すること。

４　「形状」の欄は、形状及び屋根形状を「縦置円筒型（コーンルーフ）」「横置円筒型（中仕切り）」等と記入すること。

５　「常圧・加圧の別」の欄は、該当するものに〇をつけ、「加圧」の場合は、その圧力を記入すること。

６　「寸法」の欄は、内径、高さ、側板高さ、胴長、鏡出等を記入すること。

７　「容量」の欄は、「内容積〇〇〇㍑、空間容積〇〇〇㍑（〇.〇％）、容量〇〇〇㍑」と記入すること。

８　「材質、板厚」の欄は、縦置円筒型の場合、「底板〇〇㎜ＳＳ４００、側板最下段〇〇㎜ＳＳ４００、２段〇〇㎜ＳＳ４００、最上段〇〇㎜ＳＳ４００、屋根板〇〇㎜ＳＳ４００等」と記入し、横置円筒型の場合は、胴板、鏡出について、角形の場合は、側板、底板、屋根板について材質、板厚を記入すること。

９　「通気管」の欄中、「種別」は無弁通気管又は大気弁付通気管の別、「数」はタンクに設けられる数、「内径又は作動圧」は無弁通気管にあっては内径、大気弁付通気管にあっては内径及び作動圧をそれぞれ記入すること。

１０　「安全装置」の欄は、圧力タンクに該当するタンクについて記入するものとし、「種別」は危険物の規制に関する規則第１９条第１項各号に掲げる種別、「作動圧」は「〇〇kPa」等と記入すること。

１１　「液量表示装置」の欄は、（例）「浮子方式による液面指示計」等と記入すること。

１２　「引火防止装置」の欄は、「有」・「無」のいずれかに〇をつけること。

１３　「不活性気体の封入設備」の欄は、設備等の概要を記入すること。

（例）「窒素ガスシール。増減圧時の警報設備を設置」

１４　「タンク保温材の概要」の欄は、タンク外面に保温材が使用されている場合に、その材質、固定方法等を記入すること。

１５　「注入口の位置」の欄は、注入口の設置場所を記入すること。

（例）「№〇タンクの南西側〇〇m に注入口（注入口数〇口）を設置」

１６　「注入口付近の設置電極」の欄は「有」・「無」のいずれかに〇をつけること。

１７　「防油堤」の欄中、「構造」は、（例）「鉄筋コンクリート造（高さ〇〇㎜、厚さ〇〇

㎜ ）　」等と、「容量」は「〇 〇 〇 ﾘｯﾄﾙ」と、「排水設備」は、（例）「集水桝〇基を防油堤内に設け、これより金属管により排水。堤外吐出口付近にしゃ断弁を設置」等とそれぞれ記入すること。

１８　「ポンプ設備の概要」の欄は、ポンプ種類、基数、防爆構造、ポンプ室の場合は建物構造等を記入すること。

（例）「ギャーポンプ〇基、モーター〇kW〇基（受入）モーター〇kW〇基（払出）」

１９　「避雷設備」の欄は、ＪＩＳＡ４２０１によるとともに、その概要を記入すること。

２０　「配管」の欄は、材質、口径、接続方法、防錆・防食方法を記入すること。

２１　「消火設備」の欄は、該当設備を記入すること。

２２　「タンクの加熱設備」の欄は、タンクに設置する加熱設備の概要及び加熱媒体を記入すること。

（例）「ＳＧＰ４０Ａスチームコイル」

２３　「工事請負者住所氏名」の欄は、工事を請け負う法人の名称及び住所並びに工事責任者の氏名、電話番号を記入すること。